

令和4年度 第1回京都市木の文化・森林政策推進本部会議（令和4年4月27日）
本部長（岡田副市長）指示

令和4年度予算については、皆さんに大変御苦勞をいただき、私としては大変良い予算を組めたと思っている。御存知のように、この厳しい財政状況の中、「あれも、これもやってみる」ことは全くできないうえ、実施すべき政策についても厳選に厳選を重ねて行う必要がある。そうした中で、皆さんの活発な議論、検討のもとで森林政策に係る多くの事業が予算化できたこと、感謝申し上げる。14に及ぶ課題解決ユニットも、皆さんが様々なアイデアを出していただいた賜物である。

しかしながら、本当に大事なのはこれからである。今年は、「木の文化都市・京都」としての取組など、成長戦略に掲げるプロジェクトを力強くスタートさせる重要な1年である。引き続き、局区長の積極的なマネジメントのもと、関連施策が進むよう、そして更に、行政だけではできないことは民間業者の力をお借りする、また、民間事業者の力を引き出す取組を全庁一丸となって進めていただきたい。

特に、脱炭素社会の実現に向けて、国の木材活用促進法が改正されるなど、我が国全体で、とことん木を使うモードへのシフトが進んでいる。市域の4分の3を森林が占め、古くから三山の森の恵みとともに発展してきた京都として、このチャンスを逃すことはないとする。今こそ京都の力を発揮すべきである。この潮流に乗り遅れることなく、我が国全体の木の文化・森林政策をリードしていくという気概で取り組んでいただきたい。

ウッド・ショックや、ウクライナ情勢の影響もあって、国内産木材への回帰が進んでいる。これを一過性のものとせず、これを機に、ものづくり都市・京都としての強みを活かして、市内産木材の需要拡大につながるサプライチェーンをしっかりと構築するなど、これまでの延長線でない取組に是非、大胆にチャレンジしてほしい。

これまでに様々な森林政策を講じてきたが、正直に言って、これまでの殻を大きく突破できたかという点、そうではない。今まで通りにやっていると駄目だということであり、失敗することを恐れず、大胆に挑戦してほしい。

そのうえで、皆さんに2点お願いする。

1点目は、「更なる連携の深化、連携の強化」である。自身の部署、局だけでは、なかなか進まなかった物事でも、庁内での関連する取組を広く見渡し、部署を超えた新たな連携の中で、課題解決への突破口が見出せることもある。課題解決ユニットの取組においても、成果はもちろん大事だが、若い職員、意欲のある職員、行動力のある職員を育てるため、人材育成の視点も含めて、特に若手の職員を積極的に登用してほしい。時には「失敗してもそれは仕方がない」といった考えでお願いしたい。

2点目は、1点目にも関連してくることであるが、「挑戦の気概」である。林業・森林が抱える長年の課題は、行政の取組だけでは解決が難しい構造的なものであり、これまで様々な取組を行ってきたが、この課題を打破するには至っていない。もちろん、これまでの殻を破って、こうした課題を打破するには、大きな困難が伴うものであるが、決してあきらめることなく、積極果敢に挑戦していく気概を大切にしていきたい。

そして、課題の本質を見極めて、しっかりと向き合い、一生懸命考える、そして仲間と膝を突き合わせて話し合う。そうした中から、京都市だけでなく、多様な主体を巻き込んで、小さなところに風穴を開け、それを大きくしていく。そうした気持ちで取り組んでほしい。

最後に、去年の推進本部会議でもお願いしたが、仕事は厳しいことも沢山あるが、辛く苦しい毎日ではなく、愉しく、前向きに、部下の皆さんにそういった環境を提供できるようお願いしたい。